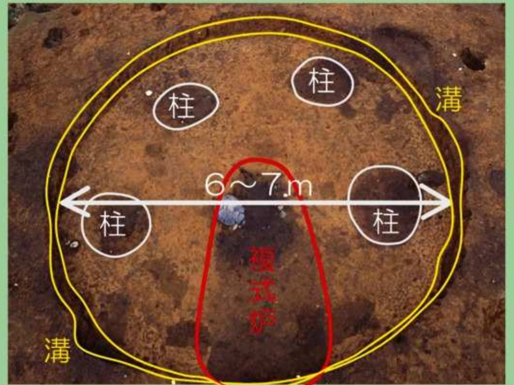


③ 竪穴住居跡

縄文時代の家の事。

和台遺跡からは、これまでに約230棟の竪穴住居跡が発掘されていますが、これは、福島県の縄文時代の遺跡では最多記録です。

左の写真のように、発掘すると、家を区画する溝、柱の穴、炉（台所・暖房・灯りの役割）、土器などが出てきます。屋根や柱は残っていませんが、テントのような建物だったと考えられます。

ちなみに、和台遺跡の住居の平均サイズは5.0mで、タタミ20畳くらいの大きさとなります。この中で、ひと家族（約5～6人）くらいの人が住んでいたと考えられています。

複式炉

複式炉とは、縄文時代の炉の名前の一つで、福島県の縄文時代を特徴付けるものです。昭和32年に、女神川の対岸にある白山遺跡で初めて発見され、考古学者により、命名されました。

通常の炉は、地面を掘りくぼめただけでの単純な造りですが、複式炉の場合、大きさが3mを超えるものもあります。

また、複式炉は3つのパーツによって構成されており、①埋設部は土器を設置し、オキ火を保管する場所、②石組部は火を焚く場所、③前庭部は作業場と考えられていますが、この他にも様々な説があります。

和台遺跡の特徴

和台遺跡の分析により、①短期集中的に人口が過密した事がわかりました。短期といっても200年間にも及びますが、考古学的に見た場合200年という時間は短期的な出来事です。また、230棟もの竪穴住居が見つかっているため、②複式炉の発展、繁栄、衰退の過程を追跡する事ができます。完全な形に復元された土器は500個体以上にのぼり、③土器のモデルチェンジと変遷の様子（土器の年表）を理解できます。

福島市岡部には、宮畑遺跡という縄文時代の遺跡があります。時代的には和台遺跡と並行する時期もありますが、宮畑遺跡は、1.長期継続的な遺跡である（約2000年間）、2.低地のムラである、3.太さが90㎝の柱が見つかっているという特徴があります。

最後に、和台遺跡は短期集中的に人口密集した遺跡であると言いましたが、人口の増加は、大量の木材資源や食料資源を消費する事を意味します。和台遺跡の衰退は、遺跡周辺の自然環境を破壊した事によって起きてしまったのかもしれません。

時代		年代	主なできごと	和台遺跡	宮畑遺跡	福島市の遺跡
旧石器時代		（年前）	狩猟・採集生活 ナイフ形石器の使用			学壇遺跡
縄文時代	草創期	12,000	土器が出現する 弓矢が使用される			仙台内前遺跡 南諏訪原遺跡
	早期	9,000	竪穴住居が出現する			獅子内遺跡
	前期	6,000	大きな集落が出現する			宇輪台遺跡 下ノ平遺跡
	中期	5,500 4,000	複式炉が流行する 土偶が数多く作られる	和台遺跡	宮畑遺跡	白山遺跡 月崎遺跡 宇輪台遺跡
	後期	3,000				上岡遺跡
	晩期					大平・後関遺跡 南諏訪原遺跡
弥生 古墳 奈良 平安		2,300	米作りが広がる 鉄の道具が使用される			
現代						

福島市教育委員会　〒960-8601　福島市五老内町3-1　電話:(024)535-1111

福島県福島市飯野町　　国史跡

和台遺跡

むかしむかし、
飯野町には
巨大な縄文のムラ
がありました。

ムラには
沢山の家が並び、
和台の縄文人達は
火を尊び、
色々な土器を使い、
暮らしていました。

WADAI Site

複式炉物語

4000年前　和台には東北地方の拠点的なムラがありました

和台遺跡の位置

和台遺跡は、阿武隈川と女神川の2つの川にはさまれた高台に位置しており、北側には、飯野地区のシンボル的な山である千貫森があります。

和台遺跡は、今から約4000年前の縄文時代の遺跡です。遺跡からは、縄文人の住んだ竪穴住居が約230棟、掘立柱建物、中央の広場、食料貯蔵用の穴、動物を捕るための落とし穴、ゴミ捨て場などが見つかっています。また、人体文土器や狩猟文土器といった珍しい土器、矢尻やナイフなどの石器、土偶や装飾品など、大量の遺物が発掘されました。遺跡は、県の道路改良工事に伴い発掘調査がされましたが、発掘によって高台の全域に縄文時代のムラの跡が広がっている事がわかり、平成18年7月28日に国史跡の指定を受けました。

これまでにわかった事

1 「人体文土器」に描かれたヒトの全身像。
2 「狩猟文土器」は、東北南部で初の出土例。今のところ日本最古です。
3 「約230棟の竪穴住居」は、福島県内の最多記録。
4 計画的な「和台のムラの姿と生活の様子」。縄文時代の土地の利用法がわかる。
5 「遠隔地との交流」が盛んで、和台人の活動範囲は400km以上だった。

① 人体文土器　福島県指定重要文化財

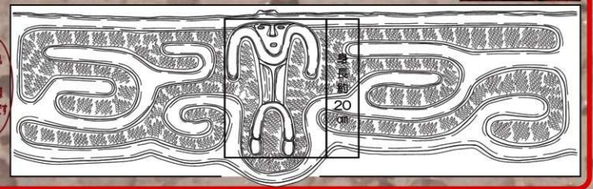
この土器は縄文土器で、今から約4000年前のものです。たいていの縄文土器には縄目と線や粘土紐によって文様がつけられており、縄目が特徴的なことから「縄文土器」と呼ばれています。

縄文土器にはいろいろな文様がつけられていますが、文様からは、土器の年代と土器の作られた地域がわかります。

土器は、鍋のように煮炊きをする、お皿のように盛り付けをする、食料を貯蔵する、液体を注ぐなど、台所にある道具のような使い方をしていました。

人体文土器には、粘土の貼り付けによって人の全身（頭、体、手足）が描かれています。これほどきちんとしたヒトの姿がつけられている土器は全国的にも非常に珍しいものです。ちなみに、このヒトの身長は約20cmですが、性別は男女どちらの説もあり、わかっていません。

発掘の際は、竪穴住居跡の炉の中に埋められた状態で出土したので、全体の形が明らかになったのは、土器の接合作業中でした。



② 狩猟文土器　福島県指定重要文化財

「狩猟文土器」とは、縄文人の狩りの様子を描いた土器のことです。これまで、狩猟文土器は和台遺跡から400km以上離れた北東北（北海道、青森県、岩手県）だけで発見されていたため、従来の説では、北東北独特の特殊な土器と考えられていました。

和台遺跡の狩猟文土器は、福島県では初の出土で、国内で最南端の出土例となります。さらに、時期的にも北東北のものより数百年古く、今のところ最古の狩猟文土器ということになります。

縄文時代には、狩猟は長期的な生活を左右する大きな出来事でした。狩りには多くの時間がかかり、時には危険な場面に遭遇する事もあったでしょう。この土器の性格は、狩猟の成功や身の安全を祈るため、あるいは、いけにえとなる動物をとむらうためのものと考えられます。

弓矢　動物　人の手足

住　居〈住まう〉

和台遺跡で発見された住居の数は、福島県内最多です(約230棟)。さらに、住居の密集度が非常に高いことがわかっています。分析によって、最盛期には一時期に約30棟の家が村を作っていた事がわかりました。

現在、飯野地区の人口はかなり少ない状態にありますが、4000年前は全国的に見ても人口の集中した地域でした。わかりやすく言えば、東京や仙台のように、縄文時代には大都会だったと思われます。

お　墓〈葬　る〉

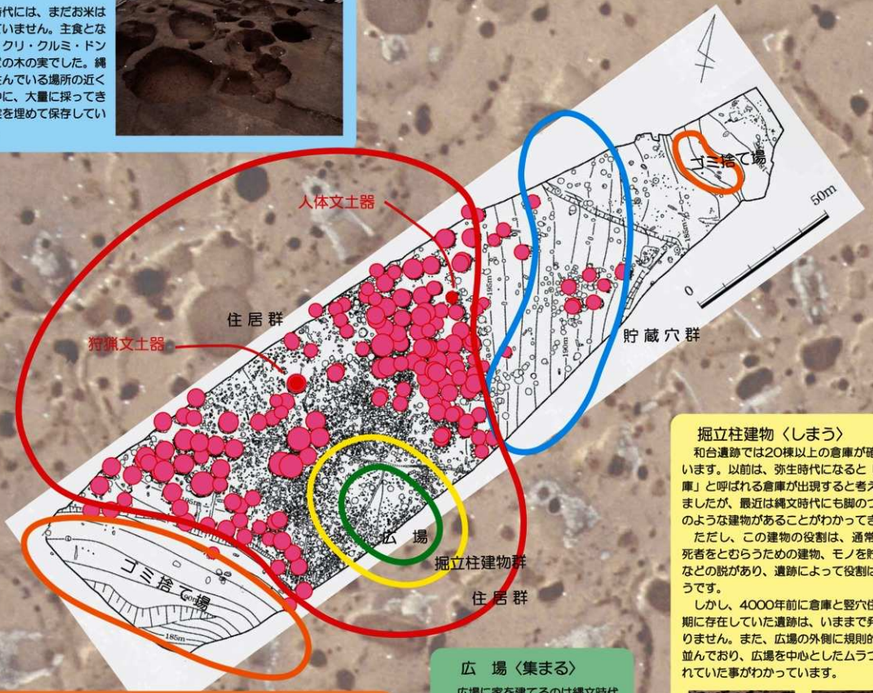
土器の中に見える白いものは、人の骨で、和台遺跡で見つかった唯一の人骨です。遺跡周辺の土は酸性が強いため、4000年という年月の間に、ほとんどの骨は土に返ってしまいます。

この人骨は、8～10歳程度の子供の骨で、遺体を焼いた後、土器を棺おけとして使っていた事がわかっています。縄文時代には、火葬という風習は一般的ではありませんでしたが、この子供の親は、子供に対して特別な思いがあったため、特別な方法で子供をほうむったのかもしれません。

貯蔵穴〈貯える〉

縄文時代には、まだお米は作られていません。主食となるのは、クリ・クルミ・ドングリなどの木の実でした。縄文人は住んでいる場所の近くの土の中に、大量に採ってきた木の実を埋めて保存していました。

④ 和台のムラの姿と生活の様子



ゴミ捨て場〈捨てる〉

縄文時代にゴミとなるのは、割れた土器、壊れた石器、折れた木の道具、木の実の殻、動物や魚の骨などです。縄文人はこれらのゴミを、家のすぐ脇ではなく、住居の造れない急な斜面などに捨てています。

広　場〈集まる〉

広場に家を建てるのは縄文時代のおきてでは禁止されていたようで、広場はムラの祭りなどを行う共同スペースでした(直径25m)。

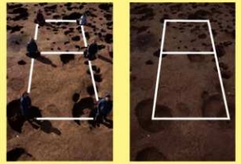
他の遺跡では、広場にお墓を作っている遺跡がありますが、和台遺跡の場合は、お墓は別の場所に造られていたようです。

掘立柱建物〈しまう〉

和台遺跡では20棟以上の倉庫が確認されています。以前は、弥生時代になると「高床式倉庫」と呼ばれる倉庫が出現すると考えられていましたが、最近は縄文時代にも脚のついた倉庫のような建物があることがわかってきました。

ただし、この建物の役割は、通常の住まい、死者をとむらうための建物、モノを貯える倉庫などの説があり、遺跡によって役割は異なるようです。

しかし、4000年前に倉庫と竪穴住居が同時期に存在していた遺跡は、いままで発見例がありません。また、広場の外側に規則的に倉庫が並んでおり、広場を中心としたムラづくりがされていた事がわかっています。



山形の石（頁岩）　100km級

和台遺跡で使用された日常的な生活道具（やじりやナイフなど）の材料は、遺跡周辺では採れない石で作られています。

頁岩製の石器

狩猟文土器　400km級

この土器は、北海道と青森県・岩手県に起源があるというのが従来の説でしたが、和台遺跡の土器によって、南東北が北東北に影響を与えていた可能性が出てきました。

狩猟文土器

⑤ 遠隔地との交流

新潟県の文様　200km級

土器の文様は、各地方・各時期によって地域の特徴があります。新潟県の文様の特徴は、プツプツした刺し跡にあります。

新潟県の文様

ヒスイ　300km級

ヒスイは、日本国内では新潟県糸魚川周辺だけでしか産出しない石です。各地方の中心的なムラでは出土する事があり、巨大なムラを特徴付ける出土品の一つです。

ヒスイ

海の魚　100km級

和台遺跡から太平洋までは、阿武隈川を100km下らなくてはいけません。直線的なコースを選ぶと、沢山の山を越える必要があります。

エイの骨、タイの歯

黒曜石　400km級

黒曜石は透明なガラス質の石材です。和台遺跡では、栃木県の高原山、長野県の和田峠、東京都の神津島原産の黒曜石が出土しています。

黒曜石

長野県の文様　300km級

長野県の文様のついた土器は、県内で約10例しか発見されていません。粘土は福島のものを使っており、文様をマネして作った土器とわかっています。

長野県の文様

まとめ

和台遺跡からは、このように遠方から持ちこまれたものがたくさんあります。縄文時代には、100kmという距離は往復するには1週間以上かかる距離でした。400kmとなれば、もっと時間がかかります。和台の縄文人が全てのものを直接入手していた訳ではないでしょうが、100km・400kmという離れた場所の特産品についての情報を知っていた事がわかります。